

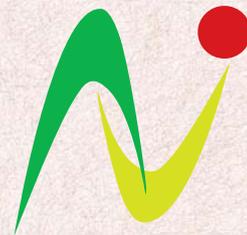
なかがわ

広報

2017. 1



町のイメージキャラクター
「なかちゃん」



No.136

- 新年のごあいさつ 2
- 年おとこ年おんなの今年の抱負 4
- 町・県民税(所得税)の申告はお早めに! 6
- 馬頭西小学校統合に係る保護者説明会について 8
- 平成29年度那珂川町臨時職員募集のお知らせ 16

**石井一成選手・星知弥選手
プロ野球入団おめでとう!!**





第136回

企画展 浮世絵で楽しむ源氏物語

にせむらさき いなか げん し
-「修紫田舎源氏」の世界-

明るい月光の下、海に臨む岡の上で下駄を履いて佇む若い男。これは、江戸時代の物語『修紫田舎源氏』(柳亭種彦作・歌川国貞画)の

主人公、足利光氏です。

『修紫田舎源氏』は紫式部の『源氏物語』を室町時代に置き替え、光氏の好色遍歴にお家騒動を絡めた物語です。文政12年(1829)に初編が刊行されるとたちまちベストセラーになり、次々と続編が作られていきました。その人気を受けて物語の場面や登場人物が浮世絵にもたくさん描かれています。

図は、『源氏物語』五十四帖に擬えて作られた54枚の錦絵シリーズ「今源氏錦絵合」の一枚で、「明石」の場面を描いています。政治的に窮地に陥った光源氏は愛する女性たちを置いて京を離れ、須磨に退去し寂しい生活をおくりますが、やがて、明石へ移住。明石の君と出会い、懐妊、明石の君を残しての帰京…というのが『源氏物語』のストーリーですが、『修紫田舎源氏』では、光氏は明石で朝霧という女性と出会い、結ばれます。『源氏物語』では光源氏は馬に乗って明石の君の館を訪ねていきますが、光氏は馬の代わりに下駄を履き、歩いて朝霧の待つ館を訪れます。これは「駒下駄」という台も歯も一つの材を割って作られた下駄。「駒」は馬のことですので、馬の代わりに駒下駄で行くという洒落になっているのです。この洒落は江戸時代に流行り、草双紙や浮世絵などで頻繁に使われました。

本展では、『修紫田舎源氏』の挿絵を描いた国貞の代表的な「源氏絵」シリーズである「今源氏錦絵合」を中心に、さまざまな「源氏絵」をご紹介します。平安時代の「源氏物語」とは少し違ったストーリーを味わいつつ、当時の若者に影響を与えた光氏の洒落た装いにも注目して「源氏絵」の世界をお楽しみください。

馬頭広重美術館 主任学芸員 長井 裕子



「今源氏錦絵合 明石十三」
歌川 国貞(三代豊国)

【会 期】

企画展

「浮世絵で楽しむ源氏物語-「修紫田舎源氏」の世界-」
1月20日(金)~3月5日(日)

【ミュージアムトーク(展示解説)】

1月21日(土) 午後1時30分~ 当館学芸員

【十二単着装ショー】

2月5日(日) 午後1時30分~
(協力:ハクビ京都着物学院栃木校)

【開館時間】

午前9時30分より午後5時まで
(但し入館は午後4時30分まで)

【休 館 日】

月曜日、祝日の翌日

【入 館 料】

大 人 500円(450円)

高・大学生 300円(270円)

※()は20名以上の団体料金。

※中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額



平成27年度

那珂川町観光写真コンテスト受賞作品

入選「家族の健康を願って」

撮影者:山中 ヒロ子さん(宇都宮市)

撮影地:鶯子山上神社

